

5-8		主題	入浴の工夫で生活に潤いの時間を作る	
イベント湯		副題	入浴を通して利用者一人一人の笑顔を	
ケアの質の向上				
研究期間	20ヶ月	事業所	台東区立特別養護老人ホーム三ノ輪	
発表者：			宮崎 美幸	
共同研究者： 添島 沙奈衣 神谷 類 脇山 宏美 永野 法子				
電 話	03-5603-2231	メール	t-mino@bz03.plala.or.jp	
FAX	03-5603-2232	URL	minowa-welfare.web.infoseek.co.jp	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	台東区社会福祉事業団が母体である特別養護老人ホーム三ノ輪では、「入居者・利用者の満足の追求」「施設の発展性と安定性の追求」「職員がやりがいのある職場環境の追求」の3つを経営理念の根幹として、サービスの向上に努めている。
------------------------------	---

《研究前の状況と課題》 67名の入居者に入浴していただくために、以前は効率を優先した入浴援助が行われていた。集団的対応だったためプライバシー保護も完ぺきではなく、入居者の残存能力の活用もされていなかった。 職員も入れ替わり援助をするため、状態把握が出来ず入居者が不穏になってしまうこともあった。 そこで顔なじみの職員が一連の入浴援助を行う「マンツーマン入浴」を平成21年9月から開始した。 同時に生活の一部である入浴を工夫し、楽しみを提供することはできないかと考えたのである。	《研究の目標と期待する成果》 ○ 目標 外出や余暇活動への参加に制限のある入居者でも、常に提供されている入浴を工夫することにより、潤いと楽しい時間を過ごしていただく。 ○ 期待するもの ・ 気分転換を図る ・ 季節感を感じたり、昔を懐かしんだりしながら、生活に潤いをもたせる ・ 準備の段階から入居者と一緒につくりあげる効果 ・ 生活の質の向上に向けた職員の意識の変化
---	---

《具体的な取り組みの内容》

- どのようなイベント湯にしたいかを月に 2 回、入浴担当で話し合いを行った。
 - 楽しんでもらえるテーマを決め、具体的にはどのような準備が必要かを話合った。
- ☆昭和30年代風呂、美空ひばり、縁日、季節風呂(海の家、紅葉)、台東の昔、今
- 浴室の準備を業務時間内で調整しながら行った。
 - 事前にイベント湯のポスターをフロアに貼りだし、利用者にお知らせを行った。
 - 浴室で使用する装飾を、入居者と一緒に作成した。
 - イベント湯の期間は3日間。全員の方が入浴する。当日は、浴槽に入浴剤を入れ、脱衣所や入口には入居者と一緒に作成した装飾の作品や入浴のテーマを表すものを展示し、テーマに即した音楽やDVDを流した。
 - イベント湯を行ったあと、入居者と職員からアンケートをとり、次回に生かすようにした。

《取り組みの結果と評価》

- 入居者の方と事前準備としてのイベント湯の装飾物を作成することで、その作業とそれらが飾られた浴室での入浴を楽しんでもらえた。
- 入居者の方が懐かしいと思っていただけるテーマにしたため、昔の事を思い出して話をされたり、笑顔がみられる方もいらした。
- 視覚、聴覚、嗅覚への働きかけもあるため、入居者一人一人に何らかの刺激はあったと思われる。
- 外出や余暇活動に制限のあるホームの生活であったとしても、生活の中の工夫一つで、生活に潤いの時間をもってもらえることができると、入居者の笑顔から職員が気づくことが出来た。

《まとめ》

平成 21 年から取り組み、約 20 カ月。2～3 カ月に 1 回のペースで行ってきた。現在は担当が中心となって企画・準備をしているが、担当以外の職員や入居者にも関わってもらい、一人一人の入居者に喜んでいただける内容での実施の継続をしていきたい。

《提案と発信》

(重要) 入浴を工夫することによって、ホームでの潤いの時間を提供できたと考える。このような工夫を入浴だけに限らず、生活1つ1つの中で今後も考えていくことが大切ではないでしょうか。

【メモ欄】